



西日本区中部ホームページ・http://www.ys-chubu.jp/

## 2009年7月号

### 「主題」・スローガン

- 国際会長 : 「一つとなる力」  
 アジア地域会長 : 「一つとなる力」・「夢見るアジア、愛するアジア」  
 西日本区理事 : 「すべてのいのちを大切に」・「いのち・平和・環境」  
 中部部長 : 「ワイズの理念を胸に自信を持って活動しよう」  
 プラザクラブ会長 : 「仲間と共にワイズを楽しもう」

### 【Kick-off EMC-C】

#### 7月例会・今後の予定ご案内

##### 【7月第1例会】

日時：7月9日(木)・18:45-  
 場所：名古屋YMCA会議室  
 内容：年間予定・会計報告

##### 【7月第2例会】

日時：7月23日(木)・18:45-  
 場所：名古屋YMCA会議室  
 内容：中部部会準備

出席者：役員(鈴木・櫛田・高田)  
 (義務者)7月担当者(高田・鈴木)  
 8月担当者(島崎・松永)

##### 【今後の予定】

1. 日和田高原キャンプ場開設準備作業  
 日時：7月19日(日) - 20日(月・祝)  
 場所：日和田高原キャンプ場
2. パレットキッズとマス釣り会  
 日時：8月13日(木)  
 場所：みやま荘(長野県木曾郡木曾町)
3. 8月第1例会  
 日時：8月20日(木)・18:45-  
 場所：名古屋YMCA会議室
4. 楽例会  
 日時：8月22日(土)  
 場所：根の上キャンプ場
5. 8月第2例会  
 日時：8月27日(木)・18:45-  
 場所：名古屋YMCA会議室

##### 第13回中部部会

日時：9月6日(日)・受付：12:00  
 場所：名鉄ニューグランドホテル

◆例会および各種行事の出欠席は、連絡主事の万福寺さんへ  
 開催前日の午後5時までにご連絡ください。

#### 6月例会・その他行事の出欠表 (敬称略)

役員	会員氏名	出席者			算定
		1	2	M	
会長	大島 孝三郎	○	○	◎	○
	小澤 幸男		○	○	○
書記	櫛田 守隆	○	○	○	○
直前会長	後藤 猛	○	○	○	○
	島崎 正剛	○	○	◎	○
副会長	鈴木 誉三	○	○	○	○
	高田 廣	○	○		○
会計	松永 裕子		○		○
連絡主事	万福寺 昭美		○	○	○
広義会員	山本 茂樹				
ゲスト					
(M)=	1. 西日本区大会				
*メーキャップ	2. 中部部会次期役員引継ぎ式				
*部会・Yの 主催行事					
出席率合計・(算定合計/会員数)					100.0
1. ニコボックス・当月/累計		3700	44324		
2. オークション		0	31300		
3. 切手(寄贈品含む)		13680	13680		
ファンド・当月合計/累計			89304		
◆次月号の寄稿者は万福寺さんです。 Eメール・moritaka_kushida@ybb.ne.jp					

## 6月第2例会報告

日時：6月11日(木)・18:45-20:15

場所：名古屋YMCA会議室

### 1. 退会者届・大島

山内さん・横井さん・広義会員の山本さんの退会届は、大島会長が西日本区事務局に提出する。

### 2. 老人介護施設慰問・小澤

小澤宅 11:30 集合とする。参加者は6人、機材の搬入・搬出のお手伝いをお願いします。

### 3. 中部部会関連事項・鈴木

(1) ブリテン担当者は中部部会案内チラシを7-8月号月報と同封の上、西日本区役員、東日本区理事・書記、横浜大会事務局、中部クラブ会長に送付する。

(2) 大島会長は部長のクラブ訪問のため、クラブの年間スケジュールを中部部会引継ぎ式(6/13)に各クラブの新会長に要請する。

なお、部長のクラブ訪問の際は、プラザのメンバー1人以上が同行する。

(3) 新年度役員(中部クラブ会長、事業主査)の方針・抱負などの原稿を400字詰原稿2枚にまとめ、6月末まで島崎さん宛てに送付してもらう。

(4) メネット会開催の内容不明、大島さんが6/13関係者に運営方法など確認する。

(5) 部長通信を発信するのであれば、メンバーとして協力するに吝かでないが、記述内容など明確にしていきたい。

## 6月第1例会報告

日時：6月20日(土)ー21日(日)

場所：ホテル美輝

### 1. クラブ年間(09/7-10/6) 予定案・鈴木

確定予定表7月第1例会に提出。

### 2. 予算案(09/7-10/6)・鈴木

(1) 確定予算案、今年度(08/7-09/6)決算書とともに7月第1例会に提出。

(2) 八木さんからの寄付切手の会計的処理。

(3) 島崎ファンド主任の活動費用の清算。

島崎さんは費用明細を明示の上、大島会長と話し合い7月第1例会に提示する。

(4) BF デリゲート1人分の追加負担金はプラザ会員数11人として算出する。

### 3. 大島中部部長のクラブ訪問・大島

部長との同行はキャビネット(後藤・島崎・鈴木)を主体とするが、他のメンバーも極力協力する。

### 4. 中部部会開催・島崎

(1) ブリテン担当者は開催の案内チラシを中部クラブメンバー全員に配布する。会長宛てに送付する7月号ブリテンにメンバー枚数分同封のこと。

(2) メネット会

島崎さんはメネット会用の案内チラシを作成する。

### 5. 名刺・リーフレット作成・櫛田

(1) クラブメンバー全員のワイズ用名刺を作る。

(2) 懸案であったクラブのリーフレット作成を急ぐ。

### 6. 懇親会

## 二度目のクラブ会長をするにあたり

鈴木 誉三

4年前にはじめて会長を引き受けた時には、YMCAやワイズの理念・組織・活動方針等にあまり理解がなく、クラブに対する考え方も定まらないまま会長を引き受け、名古屋で西日本区大会が行われた年でしたので目先の行事を余裕なく消化するうちに1年間がすぐに過ぎてしまった覚えがあります。今回は会長経験を積んだのですから少しは心に余裕をもちクラブ運営をしたいと思っています。

今年度もクラブは前年同様下記の3事業を中心に活動します。

・名古屋YMCAのプログラム「軽度発達障がい児教室」へのサポート

・「インフルエンザ脳症・小さな命の会」への協力

・老人介護施設への音楽慰問

これ以外に現在7月に日和田高原の草刈・清掃作業の協力が決まっています。土・日曜日の行事予定が多く、お休みの日に負担をかけますが出来る限り協力をおねがいします。

プラザクラブのメンバー数は現在9名、メンバー全員が各々責任感を持ち活動しているのでスムーズにクラブ運営ができていますが、今年は通常のクラブ活動以外に大島部長をサポートする中部部会運営の責任も加わりました。メンバー数が少ない為クラブの役職以外にいろいろな役を兼務しなければいけない1年間になると思いますが、心に余裕を持って今まで同様にワイズライフを楽しみたいと思います。

また今期は大島さんに無理をお願いして中部部長の役を引き受けていただきました。中部の三役だけに負担をかけることなく全員で協力し大島部長を盛り立てていきましょう。

## BF代表クララさんを迎えて

BF代表のクララさんとオベさんが5月28日、大島会長と私の4人でお約束のルートイン東別院で初めて逢い、1日のスケジュールを決めて三菱東京UFJ銀行でお金を両替して大須の着物屋さんへショッピング! しかしお休みで買う事が出来ず、お土産の時計は沢山買われました。ランチはThe Kawabun、鈴木さんも仕事の合間を縫って合流され5人で色々な会話をしながら交流しました。

その後、観光ボランティアをされている美しい和服姿の大島夫人が、徳川美術館の中を英語で案内されました! 我が名古屋プラザクラブは、とても温かくお

二人をお迎えして一緒に四日市クラブの特別例会へ、大島さんと私で出席できた事は良かったと思います。なぜならば、お二人共ナイジェリアのラゴス→ドバイ→プサン→インチョン→大阪の長旅と時差、初めてのアジア旅行でかなりお疲れのご様子で、ずっと車で移動しましたが、名古屋を出て四日市クラブに向かっていく間、寝て見えました。

四日市のホテルではチェックインして1時間半ぐらいゆっくりして頂き、その間四日市クラブの大西さんと私達3人でコーヒーを飲みながら色々お話をしました。

お二人共ドレスアップの民族衣装で現れて、四日市クラブの特別例会へ私達と一緒に出席されて、バイキングの食事を楽しんで見えました。

長い一日でしたが、笑い声が絶えない、お二人共とてもキュートでお逢い出来て楽しかったです。

PS. オベさんが奈良のタクシーで化粧ポーチをお忘れになったそうですが、運転手さんが奈良のクラブに届け、奈良のクラブが東海クラブに届け、東海クラブの長谷川さんの奥さんが徳川美術館まで届けに来てくださいました。忘れ物は無事オベさんの手元に届き、日本人の国民性が伝わった瞬間です！！

To clara & obe, Von Voyago, from yuko  
(松永 裕子)

クララさんから英文のお礼状が届きました

親愛なるワイズの皆様へ

韓国と日本での滞在中にいただきました皆様からの愛と親切なもてなしに対し、皆様お一人お一人にお礼を申し上げます。

メールが遅くなりましたこととお詫び申し上げます。無事に帰国いたしました、すぐに体調を崩しました。旅はあまりにも多い活動メニューのせいでへとへとに疲れました。しかし、いつの時も楽しいものでした。今はようやく快復に向かっています。医者はタププリ休養するようにと言っています。友人や家族に旅のことをとめどなくしゃべり続けています。忘れることの出来ない経験でした。思い出となって私の心の中に生き続けることでしょう。

経験のすべてを言葉では言い表せません。皆様のおもてなしと頂いた贈り物や素晴らしい経験をさせてくださいましたことに対して、重ねて心からお礼を申し上げます。

またお会いできるまで、皆様と絶えず接触を持ち続けられることを願っております。

どうかクラブのメンバーの皆様によろしくお伝えください。

(大島 孝三郎 訳)

西日本区大会に参加して

ファンド事業主任として最後の舞台上、総決算。発

表するプレッシャーよりも、努力不足の反省の思いが気分を憂鬱にする。

極力地上から離れたくないので列車で熊本へ向かう。6月6日の午前9時には最後の役員会が開催されるために前日の5日の夜には熊本に入る。熊本駅から大会会場そばのホテルまではタクシーで約10分。熊本駅と中心地が離れているのが気になって運転手に尋ねると駅が出来る当時に列車の騒音と煙を疎まれて離れた場所に駅舎を建設することになったとのこと。今の時代だと我先に駅が誘致されるのに熊本県民の気質なのか時代なのか、のんびりしたものを感ずる。

第12回西日本区大会が熊本の崇城大学市民ホールで始まる。午前9時には最後の役員会が開催され、特段の議論も無く確認ですすむ。今年度の代議員会にて様々の議案が混乱も無く承認されてゆく。一番の懸案事項は次次期の理事が未決定のこと。次年度の理事・役員を紹介。昨年不安な気持ちが蘇る。

午後からはいよいよ区大会の開催。メモリアルアワーでは、初めての準備役員会の懇親会で同席し言葉を交わした初田さんの元気だった生前の姿が思い出から蘇り、時間の重みが増す。セレモニーが続き理事・各部長の1年間の総括発表。今までは何とはなしに聞き流していた報告発表だが、主任としての行動と時間が重なるだけに思いはひとしお。それぞれに長い道程。100年に一度の不況が徒花を添える。戦争にならないだけ幸せと思う。

午後6時30分より場所を変えてホテル日航熊本で懇親会。800名を超える参加者にテーブル探しも一苦労。やたらと舞台に近く席で、名札を見るとBFで来日した4名の外国の方々と神谷直前理事・中堀広報主任・谷本御夫妻。私の左隣が谷本さんのメネット。右隣がフィンランドから来たJuvonen Veikkoさん。最後の最後まで楽はできないな〜と気落ちする。拙い英語を総動員で駆使するも訛りの強いフィンランドの英語では良くわからない。お互い顔を見合わせ分からんという表情だけは良く分かる。見るに見かねて谷本メネットが助っ人を買って出いただき「席を替わりましょうか」の一言に助かったと安堵する。流暢に話が弾んでいる様子。さすが同時通訳をされていた谷本さんのメネットさんだけあるなど感心。ご主人の谷本さんは6時間ぐらい同時通訳をされておられたのでお疲れ気味。日本語で「同時通訳は通常どれくらいの時間をするのですか」と聞いたら、「通常は20分位で交代」とのこと。ワイズは人材が不足しているのか、人使いが荒い。救助されただけに何となくリラックス。次第に夜の深まりと同時にアルコールの量も増す。ごちゃごちゃ右往左往の何時もの酒場へと変化する。女子高生の山鹿燈籠の幽玄の世界。メネット・コメットの仮想した芸能歌謡の世界からダンスをする飛び入り参加もできる楽しい演出に場は華やぎ酩酊状態。高校生の頃に祖母の出身地の熊本の相良の墓地に墓参りしたことを思い出しました。

祖母の旧姓は相良。45年も前の事。

大会2日目。再び崇城大学市民ホール。聖日礼拝に続き西日本区アワー。各主任の年間の発表と各表彰。主任同士安堵して握手を交わす。理事・役員引継式を経て閉会式。長い1年が無事に終わりました。大変でしたが良い経験が出来ました。ありがとうございました。

(島崎 正剛)

## 中部部会次期役員引継ぎ式報告

中部部会新旧役員の引継ぎ式は、6月13日名古屋YMCAで30人が参加して午後2時から開かれた。会合は谷川部長の開会宣言、新旧部長の挨拶に続き、3月21日に行われたチャリティーステージの収益を支援金として、我がクラブが協力する「インフルエンザ脳症の会・小さないのち」の宮澤会美香さんほか3団体の代表者に贈呈された。

新旧役員の引継ぎは、部長・主査・事務局の3グループに分かれて意見交換など行った後、紅茶・ケーキで親しく交歓し午後4時半に散会した。

会議後、7月19-20日に行われる日和田高原キャンプ場の開設準備、ロッジの清掃、広場の草刈り、テントの設営などのお手伝いについて森宗さん、グランパスの松原さん、プラザの4人が話し合う。松原さんには、グランパスから参加できる人数をご連絡くださるようお願いした。今年は、5月上旬日和田キャンプ場でワイズリーダー交流会を盛り上げたグランパスの方々の参加を楽しみにしております。

## 庄川釣行記

庄川へ釣行しかけて、おおよそ40数年になるかと想います。当時は東海北陸自動車道も無く、木曾川に架かる愛岐大橋を渡り関、美濃を過ぎると長良川が現れ、その左岸を北上する国道156号線で郡上八幡、白鳥、高鷲を越えると、つづら折れの山岳道路に入り、ひるがの高原に上がります。この高原を下ると庄川の牧戸の橋に着き3時間半はかかったものですが、今や高速自動車道を利用して2時間程でまいります。

庄川の特徴は下に広大な御母衣ダムがあり自然産卵したヤマメが銀けい化し、初冬にはダムに下り翌年遡上してきます。このヤマメは顔がトンガリ口には鋭い歯があり、尾ひれは、まさにサンマの様にくびれが入り体型は細身で如何にも精悍な顔つきで銀けい化していました。特に白く泡立った流れの速い中から飛びついてくる様な奴でした。

この事を漁協の職員などに話してもそうした魚体の魚を見た事も無いと、一度釣り上げたら漁協に持って来てくれと言う始末で・・・。

当時は秋も深まりかけると川の淵にはペアになったヤマメが、いたる所で産卵活動をしていたと土地の老人の

話です。今や自然産卵が少なくなり、原因は源流の開発により自然林の減少などで、豪雨の時などドロ水が流れ込み淵の底石にドロが溜まり産卵箇所が少なくなってしまった事、冬場融雪剤を撒いたのが川に流れ込んだりして折角の産卵に悪影響を与えているのではと色いろな原因が重なり合っているようです。魚影の減少を漁協が稚魚放流、成魚放流で増殖を計っているのが現状です。

今や、古稀ともなり、若かりし頃は、岩を飛び移ったり流れを渡ったりはいとも容易にこなしていましたが、近頃はそんな調子で動いていれはすぐひっくり返ったり全身ずぶ濡れに成ったりして往生しますので、細心な注意を払い疲れたら岩に腰を下ろしたまま、釣竿を出しているのが当たり前になってきました。幸い漁協が放流事業に力を入れていますので、昔の様な天然の凄みのある獲物が少なくなったものの、15cm程度のヤマメならば数釣りができるようになりこの年になっても、まだまだ楽しませてくれています。

我がクラブの6月プラザクラブ・オーバーナイト・ミーティング「POM」に櫛田、島崎両君と庄川で釣った獲物を持参して、ホテルでから揚げをして頂き、夜の晩餐会の一皿に加えていただきました。

(後藤 猛)

## 聖書に由来する語句・慣用句・諺

【「よく聞きなさい。種を蒔く人が種蒔きに出かけた。蒔いているとき、種が道ばたに落ちた。すると、鳥が来て食べてしまった。また、別の種が土の薄い岩地に落ちた。土が深くなかったので、すぐに芽を出した。しかし日が上がると、焼けて、根がないために枯れてしまった。また、別の種がいばらの中に落ちた。ところが、いばらが伸びて、それをふさいでしまったので、実を結ばなかった。また、別の種が良い地に落ちた。すると芽ばえ、育って、実を結び、30倍、60倍、100倍になった。」そしてイエスは言われた。「聞く耳のあるものは聞きなさい。(マルコによる福音書・4:3-9)】

【補正予算の審議中3閣僚を兼ねる与謝野大臣は、「ばらまき」というのはミレーの絵に出てくるような種のまき方。今回の公共事業は厳選され、理由と目的がある、と答弁している。ミレーの「種を蒔く人」の絵は2枚あり、写真を見る限り構図・色使いともほとんど同じでそれぞれボストン美術館と山梨県立美術館に所蔵されている。画面の真ん中には種を掴んだ右手を後ろへ大きく振って地に蒔く直前の力強い農夫の姿を、背景は薄明るい空に鳥が飛び交い、収穫した穀物が積まれ、農夫の足元は暗くて土地の良し悪しはよくわからないが、多分荒地であろう。農夫の独り言。「カラスが種をついばめばそれでもいい、道端はともかく、石ころがあつたり雑草が生えていたりしても種を蒔けば多少の収穫はあるだろう。隣の良い土地をうらやむことはない。今日も朝から元気に麦の種をばらまきましよう!」、と。】